

## はじめに

新市民会館市民研究会は、『松本市市民会館改築基本計画』（平成12年8月）に基づいて、市民が親しみやすく利用しやすい施設とし、本市の芸術文化の振興や地域の活性化を図る観点から、新市民会館の事業計画及び管理運営計画等について検討を進めるため、13年11月に発足しました。

この市民研究会は、公募21名を含む33名の委員で構成し、「施設利用部会」「事業部会」「管理運営部会」の3部会に分かれて熱心に討議を重ね、また、横須賀芸術劇場と世田谷パブリックシアターの視察研修も実施してまいりました。

委員からは、それぞれの立場で、21世紀の本市にふさわしい新市民会館の性格、機能や管理運営等に対してさまざまな角度から意見が出され、また、そこで取り組む事業については、具体的な事業企画案を出し合うことで活動のイメージを膨らませ、その可能性を検討してまいりました。ここに市民研究会としての報告書がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

共通して指摘され、開館準備を進めるうえでもとりわけ重要で、かつできるだけ早く取り組まなければならない課題のひとつとして出されたのは、館長もしくは実質的に運営の核になる人物の考え方についてでありました。詳細は本文に譲りますが、新市民会館の新たな事業展開に向けては、この館長職の情熱と手腕による要素が大きく影響すると思われるので、早急かつ慎重な対応をお願いしたいと存じます。

新しい施設が、平成19年（2007年）に迎える市制100周年にふさわしい都市づくりのために、教育文化都市や国際会議観光都市を念頭に置きつつ、『文化薫るアルプスの城下まち』松本から世界に発信する文化の核施設となることを切に希望します。本報告書に示した提言が今後の計画に反映され、さらに専門的な検討をいただく中で、松本の風土と伝統に根ざした魅力ある施設運営に取り組んでいただくとともに、次代を担う子どもたちに胸を張って引き継ぐことのできる財産となりますことを期待して、報告とさせていただきます。

最後に、大変ご多忙の中を貴重な時間を割いて熱心にご討議いただいた委員のみなさまに深く感謝申し上げます。

平成14年6月19日

新市民会館市民研究会  
会長 鈴木 邦人

## 新市民会館の基本的なあり方

### 1 新市民会館は、21世紀の文化交流の場である。

文化都市松本は、文化遺産としてすでに国宝松本城を始め重文開智学校、旧制高等学校記念館等全国的にも貴重な歴史的建造物を有しており、市民の日常的な文化活動も盛んです。文化教育的な面においては、スズキメソッド発祥の地であり、また、近年の文化創造的な活動としてはサイトウ・キネン・フェスティバルが屈指のものでしょう。

今、あがたの森と開館した松本市美術館との教育文化ゾーンの一部に、オペラもできるホールを持つことの意義を深く意識し、少し苦しくともこれに取り組んでみることはきわめて価値の高いことといえます。有形無形の文化遺産を後世に残すことは、現代に生きるものの義務なのではないでしょうか。

- (1) 高度で多様な現代の舞台芸術に対応できる多機能型ホールの特性を最大限活かした質の高いプログラムの企画に力を注ぎながら、老若男女が気軽に集うことのできるホールとして地域の文化振興に寄与することが求められます。
- (2) ホールに訪れる市民や芸術文化団体等が横のつながりを持って力を出し合うことで、コミュニティづくり、ひいては地域活性化と地域づくりを、さらには住民参加型のまちづくりをサポートすることにつながります。
- (3) 次代を担う子どもたちが一流の芸術文化に触れ、感動を体験することで、豊かな感受性を身につけ、個性と多様性を互いに認め合うこと、それを通じて、将来の文化の担い手を育成するとともに、社会性を身につけさせる教育の場として機能します。
- (4) 大会や集会などコンベンションにも十分対応できる機能を備えることから、学術や産業振興等の面においても多彩な交流が生まれます。
- (5) 20万都市にとどまらず、30～40万地域のシンボルとしてとらえ、松本から世界に向けて情報を発信するホールとして育つことを期待します。

### 2 ホールが地域づくりの核となる。

ホールの繁栄は、地域も潤すものでなければなりません。駐車場の少ない施設は一見無謀のようでもあります。交通の環境について少しだけ目線をずらしてみようと思います。人は、歩くことでより多くの発見をします。

(1) 周辺商店街等との協力 ~賑わいの演出~

周辺商店街等とタイアップし、公演等終了後にも余韻を楽しめるように、まちの賑わいを演出できるような働きかけについても取り組みを進めてください。

(2) 市内駐車場の活用と交通環境整備のあり方

ア 松本駅から、あるいは松本城や中町との回遊性を担保するため、車椅子でも通ることができる道路環境整備を進めてください。

イ 市内の観光スポットをジョイントするバスの運行を検討してください。

ウ 駐車場への案内や利用状況がわかるような交通案内システムを充実してください。

エ 現在使用可能な施設駐車場が大幅に不足していることを考えると、将来的には周辺に公園設備を兼ねる駐車場確保が望まれます。

オ 公演時間を含む5時間前後を対象とした中心市街地の有料駐車場の使用料補助について、大いに検討してください。公演時間のみでなく、前後のショッピングや食事の時間を考慮することは意義深いと思われます。

カ 公共の交通機関を率先して利用いただくため、公演入場券の提示による特典も検討してください。

キ 中高生の利用や周辺住民の来場を考慮した場合、駐輪場の充実も検討を要します。教育文化ゾーンとしての回遊、連携として、レンタサイクル等もひとつの検討材料になるでしょう。

(3) 界隈の景観とまちづくり

新施設が都市的な整備を図る中で、周辺の歴史ある風景に溶け込みながら21世紀の新しい景観形成が促されることを期待します。

## 施設の利用

1 開かれたホールでありたい。

施設が市民に愛され有効に活用されてこそ、投資した以上の利益を住民に還元するものとなります。「一本の道路を造るよりも価値のあること」(世田谷パブリックシアター)となるよう、施設の利用について考えてみました。

松本は、市民レベルの芸術文化活動が盛んですが、横のつながりでお互いを高め合うような環境は、必ずしも用意されているとはいえません。その一因としては、文化の担い手であるサークルどうしが気安く集まれる場所がないことが挙げられます。サークルが集まりやすい場所を得ることになれば、情報も得やすくなるし、連

携した活動も可能になります。さらには、芸術志望の若者が定着し、資質が向上することも期待されるでしょう。

(1) 「出会いの場」としての施設利用 ～「原っぱ」的発想を源として～

ア ひろく市民が気軽に立ち寄ることができる雰囲気づくり

日常的な市民の憩いの場として、エントランスホールや屋上庭園の利用を考え、可能な限り開館している時間を長くしていただくよう希望します。反面、市民がいつでも安心して安全に利用できることも大事な観点になります。

情景として・・・

エントランスホール ここに立ち寄れば、なにかに会える場所として、

- ・生け花や盆栽、絵画や写真、舞台衣装などの展示
- ・ミニミニ演奏会（ロビーコンサート）や、屋外にかけては大道芸が行なわれている・・・
- ・情報・談話コーナー＝芸術文化団体等の情報提供や市民が日常的に触れあい交流しあう場所

屋上庭園 散歩がてらにゆっくり憩える場所として、

- ・演じる人も観る人も、プロもアマも入り混じった交流の場所
- ・発声や楽器の練習が行なわれており、市民がその光景を眺めている・・・
- ・バンドなどの練習風景や種々のパフォーマンスに出会えるかもしれない・・・

イ 見守り

「開かれた利用」と「施設としての管理」は相反する場面もありますが、屋上庭園などの管理にあたっては、シルバーやボランティアの活用により、コミュニティの延長的な考え方で、監視役であり、かつ、見守り役であるといったソフトな体制を検討してはいかがでしょうか。

(2) 「市民創造の場」としての施設利用

ア 市民の舞台芸術発表の場

市民にどれだけ足を運んでいただくか、あるいは観るだけでなく一度は舞台に立てるように仕掛けていくべきです。市民の興味は多様であるので、ジャンルごとの、あるいはジャンルを融合した催しなど、きめこまかく、対象をはっきりさせた企画を組むことが望ましいと考えます。

イ 舞台芸術団体のホームグラウンド

いろいろなサークルが気安く集まることで、情報の共有や交流が生まれます。

ウ 一流の芸術に接する機会の提供

非日常に「観る」「触れる」ことで、文化的な高まりや心豊かな気分が得られま

す。このような機会を作るために、お年寄りや子どもなどに優待券を提供するなどの取り組みも考えられるのではないのでしょうか。

#### エ 技術スタッフの養成

自分たちが手を出して、自分たちで作るホールを目指すことや、地域の芸術文化の振興を支えるため、あるいは将来の人材を育成するために、技術スタッフの養成を積極的に行なっていただきたいと考えます。

### (3) オリジナルグッズの製作と販売

新施設により親しみを持ち、併せてPR活動の一助とするため、グッズの企画、製作、販売を検討してはいかがでしょうか。また、子ども向けにはクルーバッジのようなものを与え、このホールを担う一員であるよ、というような形をとれば、保護者も含めて、より親しみがわくのではないのでしょうか。

## 2 ゾーンごとの考え方

市民創造の場として、市民がどのように関わることができるかを考えるとき、大(中)ホールと小ホールでは性格や目的が違う要素があるのではないかと考えられます。また、施設内の各ゾーンを、お互いに有機的に結びつけて全体の有効利用を図ることが望ましいと考えます。

### (1) 大(中)ホール

ア 市民の“晴れ”の場であると同時に、市民の鑑賞機会を提供する場として活用されることが多いと思われます。

イ 舞台芸術に人が集まりにくい現状もあるので、集まらない原因やニーズを分析し、興味を持つ人や観客の裾野を広げていけるような取り組みが大切になります。クラシックや演劇の固定客は必ずしも多くはないので、企画段階では事業内容とともに集客方法も検討すべきでしょう。具体的には、観る側の意識を掘り起こすために、公演の前に勉強会を開き鑑賞に結び付けるなどの工夫が考えられます。

ウ 開館当初には、充実したホール性能を駆使した、お披露目としてのシンボリックなイベント等を企画してはどうでしょうか。

### (2) 小ホール

ア 小劇場仕様でつくられたホールで、身近な市民の芸術文化活動や創造・発表の場として期待されます。メインホールの付随施設的考え方ではなく、大(中)ホールと同様、市民が積極的に利用するホールとして重要視すべきです。

イ このため、照明等機材の充実や、使用する可能性を最大限に考えて仮設舞台

の増設等によりステージを1メートルでも広く使えるようにしたり、吊りバトン、固定バトンの数を可能な限り増やしていただくよう要望します。

### (3) リハーサル室等

市民会館が大(中)ホールと小ホールから成るという考え方をせず、充実したリハーサル室等が日常活動だけでなく発表の場としても有効に使用できるような体制を整えていただくよう要望します。例えば、照明用バトンを天井に設置する、暗幕を張らなくてもいいように壁の色を考える等について検討してください。

### (4) サービス総合事務局

市民が活動する芸術文化団体等は、事務局を代表者の個人宅に置くケースがほとんどですが、会館の事務局の中にこれら団体の総合窓口を設置することにはいかがでしょうか。団体間の交流と横のつながりが生まれ、情報を共有できるとともに、事務局の担当者の資質の向上も期待できると考えます。なお、この運営は、各団体からの拠出金で賄うこととしてはいかがかと考えます。

## 3 予約 = 使用申込みの考え方

(1) ホール使用の年間計画を示し、施設の有効利用を図るようにしてください。

(2) 使用申込みの調整にあたっては、透明性、公平性の確保が求められます。使用申込み者(団体)の話し合いによる調整を前提とし、どうしても調整が困難な場合は抽選にするなどのシステムを確立してください。

また、自主公演等における仕込みやリハーサル等を想定して、1週間程度の連続使用も可能となるよう配慮してください。

(3) 予約の開始日は、12か月以上前からとし、大型のツアー興行等にも対応できるようにしてください。

(4) 使用料は、原則として予約時に収納しますが、他の使用希望者との兼ね合いもありますので、予約のキャンセルについては厳格に対応するものとし、キャンセル料を含めたルールづくりをしてください。

## 自主事業、文化育成・支援事業

### 1 主 題

事業については、市民会館へ来た人、聴きに来た人、演奏する人が満足し、市民も「どんなものをやるのかなあ」との夢と期待に、次の5項目を主題として考えました。なお、具体的な事業企画案をいくつか挙げてみましたが、それらについては後述します。( 具体的な事業企画案)

1, 800席を市民の夢で埋め尽くせる事業は何だろうか。

松本市民が一度はステージに上がって舞台を実感できる事業は何か。

小ホールでの事業と四面舞台を活用しての事業としては、どんなものが考えられるだろうか。

事業の目的である『鑑賞』『学習』『発表』の各々の連携を滑らかに運用できる方法は何か。

市民が心を和ませ、市民に開かれた夢のある企画事業であり続けるために事業を積極的に開催し、そこに生まれる裏方(舞台づくり、ボランティア活動)を育成する事業は何か。

### 2 事業の目的と手法

どういう目的のためにどういう事業を行うのか、ここを出発点とし、収益性と文化性という相反する二面をどのように考え、日本ではどこへ行っても特色がないとさえ言われる公共ホールに対して、松本ならではの特色を出すために以下のように考えてみました。

新市民会館は、舞台・音楽芸術の振興、普及と文化の発信を図るために、組織・財源・スタッフのホール運営のための3本柱をきちんと設定し、仮に 松本芸術劇場 と呼称されてもふさわしい業務を行うこと。

新市民会館の 顔 ではなく、核 となる人を厳選すること。

顔 だといかにも著名人を連想させますが、ホール運営は専門能力の分野であり、それは、企画力、組織力等の芸術にかかわる実質の問題です。顔 のために無駄に財源を使うこととなり、さらにはその 顔 のための補佐が実質的に重要になってしまうおそれが生じるからです。

事業の種類は、「自主事業」「文化支援・育成事業」に分類され、手法は、「鑑賞」「学習」「発表」が考えられること。

「鑑賞」「学習」「発表」は、それぞれが絡み合って成立するため、常にお互いを意識しあうことが必要であり、市民の意識の向上や市民に開かれた施設となるためにも、これらの事業を積極的に行っていくことが望まれます。新市民会館においては、日常的に演劇が公演され、演劇に親しむ環境づくりがあるべきと考え

ます。音楽、美術、演劇のバランスのとれた振興策を望みます。

### 3 自主事業等と芸術文化団体の活動

館が主催する自主事業や文化支援・育成事業は大いに取り組むべきですが、このために今まで市民が築き上げてきた芸術文化活動がなおざりにされるようでは本末転倒です。お互いの活動計画等について情報交換を密にし、市民活動がきちんと保証されるべく調整または整合を図るよう努めてください。

### 4 自主事業等に対する評価

館として企画した自主事業等が地域の芸術文化の振興や育成、周辺や市民にもたらす影響や効果について当初見込んだ成果が見られない場合は、スタッフや組織を含めた事業全体の見直し等改善の努力が行なわれるよう、金銭的な収支勘定ばかりでなく、客観的な指標を持って評価するシステムづくりをしてください。

## 管理運営計画

以上述べたような施設利用や事業を展開するうえで、『市民会館改築基本計画』の基本理念・基本概念が、21世紀の市民生活を明るく豊かにするための具体的な政策として機能を果たしているのか、その費用対効果が大きく問われます。利用者ニーズへの対応度、地域文化振興・育成の達成度、中心市街地活性化への貢献度、これらの評価システムを確立し、情報公開による市民の声を最大限に考慮しつつ運営に反映されることが重要です。

財団法人への管理委託に関しては、財団法人のあり方が問われている昨今、慎重な検討を必要とします。一番の問題は、その人材といえます。経営的センス・専門知識・人格等を兼ね備え、情熱のある館長及び専門スタッフの起用を望むものです。

管理運営や事業等において、一定の指標のもとに評価するシステムを用意し、館がもたらす成果について大いにPRを図るとともに、万一、一定の成果が見られない場合には時宜に応じて改善を図るよう努めてください。また、責任の所在を明確にした体制づくりをしてください。

#### 1 運営は人による。

文化の創造と芸術の普及に高い見識と情熱を持ち合わせて運営にあたる人が、館長に就くことが望まれます。ホールが貸館だけでなく、自主運営されることを期待するからです。

##### (1) 館長像

ア 館長の考え方を運営方針や運営計画に反映し、スタッフを含め館長自身が仕事をしやすい体制を敷くことが必要であるので、できるだけ早く適切な人材が選任できるよう努めてください。

イ 館長は、全国あるいは世界に向けて情報発信ができる人が望ましいと考えます。

ウ 一方、館長がシンボリックな人物である場合、逆に難しい面が生じることがあるので、館長は調整役に徹していただける方がいいとの意見もありました。

## (2) 事務局

ア 事務局は、施設利用を推進するサポーターであり、積極的に使っていただく知恵を出せるように取り組んでください。

イ 個々の芸術文化団体等が横のつながりを持てるような機関として機能させてほしいと考えます。前述の「サービス総合事務局」の項で触れたのと同じ考え方です。

ウ NPOについて、将来的には運営の委託をも視野に置き、育成を含めて研究すべきであると考えます。

## (3) スタッフ

ア 職員の勤務体制を工夫し、また、多様な雇用形態を採ることで人の配置に弾力性を持たせることにより、市民の社会参加と継続性を促すような取り組みを求めます。特に、ボランティアを積極的に活用してスタッフの確保に努めるとともに、業務にあたっての充実感、責任感と継続性が得られるような体制づくりをしてください。

イ スタッフの身分をきちんと保証し、権限を持って現場を仕切ることができるようにすべきと考えます。なお、技術系専門スタッフのうち、1人以上は業務委託ではなく、館の専任スタッフとして配置してください。

ウ いい催しものを呼ぶ自主企画ができるとともに、コンベンションの誘致などにも対応できる力を持つスタッフを配置するよう要望します。

## (4) ボランティアと支援する市民の会

ア 施設管理、興行スタッフ等、積極的にボランティアの協力を得るよう努めてください。従来業者委託業務としていた分野に関してもボランティアの可能性を検討することにより、運営経費の削減に努めてください。

イ ボランティアを、単に無償の労力提供者ととらえることは誤りです。ボラン

ティアを積極的に取り入れる場合、“無償”というのは長続きしないし、教育もきちんと考えないとボランティアの本来の意味が薄れてしまうことも懸念されますので、注意が必要です。

ウ 自主事業の推進、利用者拡大を念頭に、入場料割引等の特典つき会員制度（「友の会」）を確立されるよう要望します。単に鑑賞団体ということだけでなく、運営と一緒に携わっていく組織として、『自分たちが作っている、あるいは自分たちがそこに足を運んでお手伝いをしている』という参加意識が芽生えるような団体であることが望まれます。

エ 演じる立場、観る立場、運営をサポートする立場など、市民の楽しみ方は多様であるので、サービスの対象を良く分析し一元的にとらえないこと、また、幅広いネットワークを構築することが成功に結びつくと考えます。

## 2 開館時間は、利用者のニーズに応じてほしい。

開館時間は、利用者のニーズに応じて開閉館時間をはじめ弾力的な運用とするよう検討してください。際限なく開放する必要はないと思いますが、仕込み、リハーサル、かたづけなどの場合にフレキシブルな対応に努めてください。

(1) 基本的に、施設、屋上庭園、レストランの利用時間は、それぞれ独自の設定が必要と思われます。ニーズによる24時間開館の可能性については大いに検討してください。保守点検を目的とした休館日以外は、基本的に使用が可能であるように運用してください。

(2) 屋上庭園は、原則として立ち入りに時間的制限を加えないことを望みますが、他方、施設管理上の問題や近隣に対する風紀上の問題も指摘されていますので、適切に調和を図るよう十分研究してください。

(3) レストランは、文化の発信基地にふさわしい雰囲気やサービスを提供でき、会館利用者のみならず、そのレストランを目的に人が集まるニュースポットとして期待します。ホールとの独立性を維持し、営業時間はできるだけ長くしてください。また、業者の選定にあたっては、松本の文化度が問われる重要な選択になると思われるので、十分配慮してください。

(4) 市民に開かれた施設である以上、さまざまな人が集まってきます。リスクに対しては、規制による排除ではなく、きめこまやかなセキュリティー体制により利用者や周辺住民の安心感を確保するよう、特に留意してください。

## 3 使用料の設定についての考え方

- (1) 施設の運営に裁量を持たせるために、「利用料金制度」は大変有効な手法と考えられます。独自の企画やスピーディーな対応が期待できる一方で、運営側の経営感覚が試される部分といえます。
- (2) 建設に関してさまざまな物議をかもした状況からも施設の採算性は大きく問われることとなります。
- (3) 使用料は、収支バランスや類似規模のホール等の事例を参考に、適切な料金体系を示してください。ただし、市民の芸術文化活動（団体等）は経済的な基盤が脆弱なケースが多いことから、ホールの主目的である市民の芸術文化振興の観点から、使用料の減免もしくは助成制度を設ける等の方法により、市民の利用に十分配慮してください。

#### 4 市民が館の運営等にどのような関わり方をするか。

- (1) 施設をひとつのコミュニティとして自治意識を育成していくためのシステムを構築し、市民の力を最大限に活かすことが期待されます。

- (2) （仮称）市民運営協議会

市民会館の運営に関しては、財政面を含め、徹底した情報公開を求めます。それとともに、運営や事業がもたらす効果がある時期ごとに評価し、そのうえで、市民や利用者がさまざまな形で提言し、改善に結びつけることができるシステムの構築が望まれます。

#### 5 関連施設との情報交換や協同企画により、相乗効果を高める。

- (1) 地域ネットワーク（教育文化ゾーン）を活用し、地域文化の底上げを図るとともに、市街地の回遊性を高めて地域が活性化されるよう期待します。
- (2) 文化ネットワーク（全国の文化施設）を構築し、自主事業を活性化させるとともに、協同自主企画による興行経費の削減が期待されます。

## 具体的な事業企画案

### 1 自主事業

#### (1) 著名アーティスト・団体の公演

##### ア 各種コンサート

##### (ア) 季節のコンサート

春夏秋冬、それぞれ季節ごとの趣向を凝らしたコンサートのシリーズ。年間を通じて行う連続したセット企画で、活動の核をイメージさせることもできると考えます。以下は、その一例。

春・・・「桜の頃 モーツァルトナイト」

待ちわびた春をイメージしたモーツァルトプログラム。

夏・・・「薄川花火の頃 ヘンデルナイト」

ヘンデルの時代、川の野外コンサートが日常的で、水上で行われる楽曲はヘンデル自身がそのために何度も書き直しているくらい。天候と楽器の問題がクリアされれば市民会館の屋上庭園で。大ホールで行う場合は、大編成のモダンなオーケストラで沢山の金管楽器を入れて行うのが適当と思われる。

秋・・・「アフター・サイトー・キネン タンゴナイト」

サイトウ・キネンの後、少し毛色を変えてタンゴなどを。

冬・・・「鍵盤音楽の変遷 コンチェルト」

チェンバロからフォルテピアノを経てモダンピアノに到る流れを聞き比べるイベント。

##### (イ) 楽器別アンサンブル

同族、同種の楽器によるアンサンブル。世界には多種多様の楽器が存在し、またその同族、同種楽器のために書かれた作品やアンサンブルも数多く存在します。これをシリーズ化することにより個々の楽器の特性や機能を十分に引き出し、名曲や新たな作品を通じてそれぞれの楽器の世界の響きを楽しむ企画。例として、弦楽四・五・六重奏、フルート・アンサンブル、クラリネット・アンサンブル、ピアノ・アンサンブル等。

##### (ウ) 近代和楽演奏

日本音楽集団、三木稔、東儀秀樹等の和楽演奏

(エ) 多種混合（クロスオーバー）音楽公演

ジャンルを超えて多種混合音楽の企画公演。一つの「テーマ」のもとにクラシック、ジャズ、ラテン、ポピュラーなどのそれぞれの異ジャンルによる表現や手法の違いを楽しんでもらうクロスオーバーの企画。

(オ) J - P O P、ロック等のビッグアーティストコンサート

ポルノグラフィティ、矢沢永吉、スターダストレビュー等、長野県文化会館等長野市で行われるコンサートが新市民会館で興行される可能性に期待を寄せている若年層が多い。

(カ) バレエ・モダンダンス音楽の祭典

「白鳥の湖」「眠れる森の美女」のような作品の上演はもちろん、その歴史の起源としての古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代からのバレエ、ドイツに生まれたモダンダンス（コンテンポラリー）等として、長期にわたるシリーズ化を実施。四面舞台を活用することができる。

その他、「ハートフルコンサート」と題し65才以上を無料とした企画コンサート、「My Seat コンサートシリーズ」と銘打ってオーケストラ、合唱、室内楽などの分野別にS S、S、A、B等の各シートを申込み、年間単位で自分の座席を購入して鑑賞する企画。などのアイデアも出されました。

イ 各種演劇公演

(ア) 松本演劇フェスティバル

1987年から96年まで9回、あがたの森を中心にして行われ、全国からも注目された演劇イベントを新市民会館にて復活を。大（中）ホール、小ホール、実験劇場、屋上庭園、ロビーなど施設全体を拠点に、あがたの森、中央公民館、縄手通り等市街地全域を大フェスティバル会場として捉え、同時多発的に演劇を上演。出演者と観客とのシンポジウム、ワークショップ、演出家の講演会等も行う市民全体を巻き込んだ大きなイベントに。

(2) 歌舞伎、邦楽、能、狂言等の日本古来の伝統芸能の公演

地方版の縮小規模の公演ではなく、歌舞伎座で行われるような本格的な出しものを。また、夏の松本城恒例行事薪能が雨で中止になった場合の代替会場として、大ホールの使用を検討。

### (3) 親子・子どものための公演

学校週5日制に伴い、週末に親子が鑑賞できる催しを選んで開催。演劇としては、劇団たんぽぽ、劇団四季の子どもミュージカルのシリーズや、劇団飛行船のマスクプレイなど。また、レーザーディスクに語りやバレエを組み合わせたり、SKFの語りを更に発展させて演劇性を高めたり、といった手法で低予算化が図れる。

### (4) レクチャーコンサート

さまざまなテーマのもとに、演奏者自身または「肩の凝らない」解説者のレクチャーを入れながらのコンサート。ついでに、演奏者との交流をふくめたティー・パーティーも同時企画。

### (5) 周辺文化施設との連携、合同企画公演

松本市美術館、あがたの森等と連携し、回遊性のあるイベントの開催。例えば「日本におけるイタリアの2001年」というイベント事例のように、ある大きなテーマを設け、美術、音楽、演劇をひとくくりとしてそれら関連芸術に触れ、鑑賞しようという大がかりなものが考えられる。当然それぞれのロビー、ホワイエにおいて、他施設の開催内容を案内し、回遊させる。

## 2 文化支援・育成事業

### (1) 市民の発表の場提供

#### ア 松本市芸術文化祭

現行の歴史ある芸術文化祭。市民が主催で美術館と共同で開催すれば、もっとすばらしい文化祭、芸術祭になると思われる。最低1週間から10日はイベント期間として必要。また、参加団体に対して条件付きで支援するというシステムを作ること、芸術的レベルの向上に繋がることも考えられ、そのシステムの研究も必要か。

#### イ 身障者芸術祭

パラリンピックがあるのと同じ発想での芸術祭があってもいいかと思う。その形態は研究討議する必要はある。

#### ウ 童謡唱歌祭

平成16年秋に2日間にわたり開催が予定されている、全国童謡唱歌サミット。保育園児を巻き込んで全国から600人が参加し、市内の22団体、全県では62団体4000人という規模のイベントとなる。

## エ 世界合唱大会

合唱はその発声や表現も民族性や地域性に多くの特色があり、また「人の声の集合」であるため動員が楽にできる。特色のある企画内容にすることにより、国際性を持たせた世界合唱祭およびコンクールの実施が可能。バルト三国で催されている合唱祭のような「1万人の合唱団」もある。

## オ 中信高等学校演劇合同発表会

毎年9月、中信地区の高校演劇部が1時間の作品を連続して披露する合同発表会。1996年の第11回までは旧市民会館で行われていたが、第12回からは塩尻市レザンホールへ会場を移した。当時の市民会館では使用料免除が全く認められなかったから。教育を主眼とした高校演劇であるので、県立だから、市立だからという閉鎖的考え方を改めたい。

## カ まつもと演劇祭

松本演劇フェスティバル中止の後、市内の地元アマチュア劇団により毎年行われている、演劇文化振興のためのフェスティバル。毎年「気軽に演劇に触れる」ための趣向を凝らした企画公演を行うが、6回目の去年(9月15日(祝)ピカデリーホール)は30分の短編演劇を14本連続上演する企画。回を重ねるごとに少しずつではあるが演劇についての理解者、愛好者を増やしつつある。

## キ 小中学生の吹奏楽イベント

今や吹奏楽は小学生まで低年齢化して、全国に普及している。四面舞台をフルに活用して、市内小・中学校の発表とすることにより、夏休みの3~4日かけたイベントに。また小学生だけを対象に県内、中部地方と徐々に範囲を広げて考えることも可能。

## ク コンサートフェスティバル

アンサンブルやオーケストラ伴奏での子供のソロ等のコンサートフェスティバル。事前にテープ審査などしてオーディションまたはコンクール形式にすることも可能。

## ケ ジャパン・ブラス・フェスティバル

金管楽器のジャンルごとにコンサートからクリニックまでを行うブラスの音楽祭。トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム・チューバ等、金管楽器の各協会がある。それぞれがプロの演奏家、音楽家、音楽大学の講師、音大生、一般アマチュア音楽家等で構成される1,000人~1,500人ぐ

らの団体。それらを一堂に集め、何千人の規模として松本から発信させるイベント。

#### コ 松本国際弦楽アカデミー&フェスティバル

世界の著名な弦楽器奏者（例；シュロモ・ミンツ氏）を音楽監督として、才能教育の地、松本の「開かれた」弦楽器のアカデミーとその集約されたフェスティバル・コンサートの開催。参加者による弦楽オーケストラの編成。

#### サ 才能教育研究会

夏季学校、甲信地区大会、支部発表会、世界大会、ピアノ科10台コンサート等。

#### シ 映像、視覚芸術分野の作品の発表

ビデオ作品などを自作している人もあるが、現状ではなかなか発表の場がない。新施設では、制作スタジオや投影スクリーンも設備されているので、新しい取り組みとして有意義と思われる。具体的には、「ビデオコンテスト」など。

ス その他上記の企画から派生、発展するさまざまな企画。

### (2) 市民の手づくり公演

市民参加型の親しみやすい事業例。市民が数多く出演するものは、観客動員数も相応して見込めるものである。

#### ア 市民を巻き込んだ芝居づくり

国宝松本城400年祭においての松本青年会議所主催による野外劇「愛と夢松本」、信州SAKU音楽祭においての元タカラジェンヌを招いて制作した市民ミュージカル「フラワーブルーミング」等の事例のように、制作から出演までを数多くの市民の手で作り上げていく総参加型イベント。松本市制100年を記念して、松本市の歩みを県歌「信濃の国」や松本・安曇地方の民謡等を組み合わせながらオペラ、ミュージカルにしたらどうか。

#### イ 創作子供ミュージカル

子どもを対象にオリジナルミュージカルを創作する試み。例えばいくつかのグループを作って、1年間をかけて作品づくりをすると年間数本の上演が可能か。出演者の親などの鑑賞する団体が育つ可能性も。

## ウ 第九をうたう会

松本平第九をうたう会主催。大勢の市民を巻き込み12月に定着した演奏会。専用のオーケストラも編成する。昨年(12月16日(日)長野県松本文化会館)は1,580人の動員を記録。

## (3) 劇場ツアー

劇場裏側の舞台装置等を見学するツアー。舞台の吊り天井、照明等、直に見てもらい、演劇の別の楽しみ方、知らなかったことを知り、演劇に興味をもってもらうというもの。

## (4) 演劇大学

中央で活躍する人気の演出家、役者等魅力的な講師を選定し、市民会館の実際の舞台上で演劇に実際に触れ、体験し、学習する。役者のためのワークショップ、子供のための演劇遊び、演劇スタッフ育成のための講座等さまざまなカリキュラムが考えられる。年間を通じ、また連休を利用した短期集中講座など、参加しやすい日程を探る。

## (5) 会館専属オーケストラ

市民会館を拠点に活動するオーケストラの結成、公演。

## (6) 出前公演

ア 新人登用の場として、またサタデーコンサートとも連携したロビーコンサート。

イ 登録団体を普及と育成を兼ねて各地(公民館・福祉ひろば等)へ公演出張。

## (7) 各種コンクール

ア 消防音楽隊、警察音楽隊のコンクール

イ 室内楽コンクール(SKFの若人のためのサイトウキネン室内楽勉強会を発展させた室内楽コンクール)

ウ 合唱、ピアノ、童謡、声楽、弦楽器、管楽器、作曲等のコンクール

エ 指揮者コンクール

オ 全国地元劇団のオリジナル戯曲による演劇コンクール

## (8) サイトウ・キネン・フェスティバル

これこそ松本ならではの、日本のみならず世界に誇れる音楽祭。松本といえばサイトウ・キネン・フェスティバルといわれるほどで、小沢総監督が音楽界の最

高位のひとつであるウィーン国立歌劇場総監督に就任した知名度と実力に、地元のみならず全国から駆けつけるスタッフ及び財源と運営の3本柱の足並みが揃った11年目の大事業である。オーケストラコンサートと舞台芸術の粋を集めたオペラをメインにさまざまな角度から楽しめるいくつかのふれあい・出前・ボランティアコンサート等をはじめ、多くの一般市民の参加を得て、リハーサルを含めた松本の2カ月弱の夏を彩る。また、特筆すべきは県内の小学6年生1万6千人余の子どものための音楽会、各種管楽器のセミナー、クリニック、さらには音楽を勉強している若い人のための「室内楽勉強会」と、育成事業にも力を注いでいる面の活用を考える。

#### (9) アート・マネージメント講座

音楽、演劇等をテーマに芸術文化活動の企画・運営等に携わっている人、志す人を対象のアート・マネージャー育成講座。現在多くのホールで懸命に取り組んでおり、研究、勉強している。みんなの創意を絞り出してそれをどうやって現実を起こしていくか、そのシステムをきちんと作り上げて進行することがホール成功の秘訣である。